



学校教育目標

自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒の育成

目指す児童生徒像

○ 自ら考え、進んで学力の向上に取り組む子

○ 自らちがいを認め合い、共に生きていく子

○ 自ら健康と安全に気を付け、たくましく生きていく子

1 経営課題

- (1) 学校組織力の向上
 - ・ 適切な人材の確保
 - ・ 学校職員間の連携
- (2) 在中国在外教育施設における課題への対応
 - ・ 教育活動における安全性の確保
 - ・ 省、市教育庁との信頼関係の構築
 - ・ 学習に必要な教材等の入手
- (3) 教育環境・設備の充実と活用
 - ・ 日本の基準（国策）に準じた教育環境の整備
 - ・ 教員の指導や児童生徒のニーズに即した教育環境の構築
- (4) 安定した学校経営に必要な児童生徒数の確保
 - ・ 選ばれる日本人学校となるための魅力の創出
 - ・ 将来を見据えた長期運営計画の策定

2 教育課題（※義務教育9年間の学校として）

- 「グローバル人材」の育成と『信頼され、選ばれる学校』づくり
- (1) 確かな「学力の向上（知育）」
 - ・ 基礎・基本の充実（国内での学習に対応できる力の育成）
 - ・ 自己実現が可能な学力（希望進路実現のための学力）
 - (2) 豊かな心（徳育）
 - ・ 他者を尊重し、互いに高め合う心の育成（いじめ防止対策の徹底）
 - ・ 多様性を理解し、受け入れる力の育成（国際理解教育）
 - (3) 健やかな体力（体育）
 - ・ 厳しい気候下での児童生徒の自己管理能力の育成
 - ・ 厳しい気候下での運動習慣と体力育成方法の確立
 - ・ 厳しい環境にも適応出来る心身の育成

【保護者の願い】

- ・ 素直な心を持ち、人の痛みがわかる子どもの育成
- ・ どんな環境でも自分の考えを持ち、自分の道を切り拓いて社会に貢献できる子どもの育成
- ・ 自分の夢や目標に向かって、学力の向上、豊かな人間性の向上、体力の向上に取り組む子どもの育成
- ・ 現地理解の推進（交流活動の充実）
- ・ 正しい日本語に触れる機会の充実と習得

【現地社会の願い】

- ・ 駐在員子女への安心で信頼のおける教育の場の提供
- ・ 日本人としての誇りを持ち、国際人として夢をもって生きる子どもの育成
- ・ それぞれが自分らしく目標を持ってたくましく生きていく子どもの育成

【学校経営の重点目標】

- 1 授業を通して、確かな学力の向上を図る。
- 2 異文化と共生できる資質や能力の育成を図る。
- 3 道徳教育の充実により豊かな心を創造する。
- 4 環境や状況に応じて健康や体力の維持・管理・向上を図る力を育成する。
- 5 GR-PDCAを意識した教育活動をととして「信頼される」学校づくりを行う。
- 6 国内同等の教育環境を整備する

【学校経営方針（経営スローガン）】

「未来につながる持続可能な広州日本人学校の創造」～五つの愛（合い）ある教育活動～

- 1 子どもと教師とのつながりを大切にする。（おき合い）
- 2 子どもと授業とのつながりを大切にする。（まなび合い）
- 3 子ども同士のつながりを大切にする。（たかめ合い）
- 4 子どもと保護者・日本人社会とのつながりを大切にする。（つき合い）
- 5 子どもと中国とのつながりを大切にする。（かかわり合い）



【教育活動の重点】

1 確かな「学力の向上」

- (1) 校内研修・授業研究の充実（授業・教育の資質向上）
- (2) 自己実現に向けた基礎・基本の徹底と応用力・創造力を発揮できる学力の育成
- (3) 学力の向上に向けた工夫
ICT活用による個別最適な学びの実施
読書活動の推進

2 異文化と共生できる資質や能力の育成

- (1) 授業を通じた英語・中国語等の語学力向上
- (2) 現地校交流の実施
- (3) 国際理解教育（日本文化理解を含む）の充実

3 道徳教育の充実

- (1) 命の大切さ、人権を尊重する指導の充実
- (2) いじめ防止対策の徹底（教員の生徒指導力の向上）
- (3) 児童生徒会・学校行事を中心とした一体感のある学校づくり

4 健康管理能力、体力の向上

- (1) スポーツに親しむ習慣づくり
- (2) 部活動・クラブ活動の活性化
- (3) 保健指導・歯科指導の実施による健康管理意識の育成
- (4) 健康を意識した生活習慣の確立と食育の実施

学校経営目標具現化への取り組み

～「五つの“愛”（合い）」を育む六つ視点～

5 現地社会・保護者から「信頼される」学校

- (1) 児童生徒から愛される学校、自ら誇れる学校づくり
- (2) 不登校、不適応等、児童生徒一人一人に応じた適切な支援体制の検討
- (3) 保護者アンケートの実施による学校改善
- (4) 『選ばれる学校』であるための日本人社会に開かれた学校づくり
- (5) 安全教育の実施と自らの命を守る指導の充実

6 教育環境の整備・その他

- (1) ICT環境の見直しと必要な整備の実施
- (2) 関係機関との連携による安全な教育環境の整備
- (3) 風通しの良い職場環境づくりと学校職員の組織力の向上